

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

VII 公害反対闘争

11 原発反対闘争

巻原発公開ヒアリング阻止闘争

原発反対闘争では、一九八〇年から八一年にかけて、新潟県柏崎(一九八〇年一二月)、島根県(八一年一月)、静岡県浜岡(八一年三月)などで、原発建設を前提とした政府の公開ヒアリングにたいする阻止闘争がかつてない規模でおこなわれたが、その後も、引き続き労働組合も加わった阻止闘争が展開された。新潟県巻原発公開ヒアリング阻止闘争もその一つである。

東北電力が新潟県西蒲原郡巻町に建設をめざしている巻原発一号機建設計画については、通産省主催の第一次公開ヒアリングが敦賀原発事故などで政治的に延期されていたが、巻漁業協同組合が漁業権を放棄し、建設に同意したことから事態は急変し、一九八一年八月二十八日第一次公開ヒアリングが巻町営体育館で開かれることになった。これにたいし、新潟県評議長が代表となっている「柏崎・巻原発設置反対新潟県民共闘会議」を中心に、全国から八五〇〇人が参加して、会場周辺デモなど、公開ヒアリング中止を求める抗議行動をくりひろげた。

玄海原発公開ヒアリング阻止闘争

九州電力玄海原発三、四号機増設計画に伴う通産省主催の第一次公開ヒアリングは、一九八二年七月一六日、佐賀県唐津市の都市青年の家で開かれることになった。その前日の一五日の夜、総評、社会党、玄海原発設置反対県民会議などで組織する「ヒアリング阻止現地闘争委員会」は、九州各県から一万人の組合員を動員し、徹夜で阻止行動を展開した。折りからの激しい雨の中を、一六日未明から九時間以上にのぼる座り込みやデモで会場を包囲し、明け方、これを排除した機動隊との小競り合いのなかで一人が逮捕された。通産省は、意見陳述人や傍聴人の一部を公開ヒアリング前日の一五日から会場に入れ、原発推進派だけからなる公開ヒアリングを強行した。

高速増殖炉「もんじゅ」公開ヒアリング阻止闘争

動力炉・核燃料開発事業団が福井県敦賀市白木に建設を計画している高速増殖炉「もんじゅ」についての原子力安全委員会の公開ヒアリングは、一九八二年七月二日、敦賀市文化センターで開かれることになった。総評、福井県評の現地闘争本部は、前日の一日午後一時から一万人の総決起集会を開催した。引き続き、参加者全員がヒアリング会場付近に移動して、会場を包囲し、座り込みや周辺デモを繰り返した。そのため、公開ヒアリングは、機動隊の盾に守られ、反対派のシュプレヒコールがとびかうなかでの開催となった。

【参考資料】(1)「昭和五七年版環境白書」、(2)「公害弁連第一一回総会議案書」、(3)「公害弁連ニュース」各号、(4)「環境週間・第七回全国公害被害者総行動デー報告書・公害根絶と平和を求めて」、(5)「第六六回総評大会各局報告書」、(6)「日本の教育第三一集日教組第三一次・日高教第二

八次教育研究全国集会(広島)報告」、(7)「公害研究」各号、(8)「全国公害患者の会連合会事務局だより」各号、(9)「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放第八回全国集会のしおり」、(10)「きれいな水といのちを守る霞ヶ浦シンポジウム議案書」、(11)「とりもどそう青い海(無リン洗剤も追放しよう)」、(12)「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国連絡会ニュース」各号、(13)「全水道第三三回定期大会議案書」、(14)自治労中央機関紙「自治労」各号、(15)自治労、下水道法改正全国決起集会議案書」、(16)「カネミ油症全国実行委員会ニュース」各号、(17)公害弁連「公害と国の責任」

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
